

日本国における未来への提言

黒田インターナショナルファンデーション

黒田 毅

既存の産業基盤は明らかに優秀である。しかし時代変化への対応は産業を2分化したのである。また基幹産業がITや航空宇宙へ転換することは時代の趨勢であり、それら要求への対応は、政治において立ち遅れている。

軍は、その実用性において明確にその世界の現状への自己構築を要求される。

官僚組織が過去から未来へ転換できないことは日本的な既得権益における変化の拒絶である。

政治はこれら世界の変化に対して、明確な理解とプレゼンスを要求される。

これらは、政治のプレゼンスと新たな理解において、日本が再び、プレゼンスを世界に有することは可能なのである。これらは既存社会基盤と現実からの未来への飛躍を条件とする。

教育は、時代変化に対して世界と対等な内容と環境を要求される。

これらは日本的特性、右倣えという現象が、その政治変化において、国家転換を可能とするのである。これは明らかに逆転の発想である。

世界と対等な人材の育成は国家が未来を有する唯一の選択と考えるべきである。

政治がアメリカに追従することは、その自立の独立の欠如なのである。

これらは過去と未来という現実は、考査と考察を経て、未来を求めることができる。旧時代における組織から、時代変化と現実変化への対応は、政治と社会において新しい基準と判断を必ず必要とする。